久斗山地区公民館だより

令和3年
10月号
28日発行
久斗山地区公民館

【ご挨拶】 コロナの感染者も全国的に低下し、ワクチン接種率も高まり、緊急事態が9月末でようやく解除になりました。これまで延期になっていた行事も、一部がようやく開催されるようになり、移動自粛も少しづつですが緩和されてきています。秋も深まり行楽シーズンですが、季節は一気に進んで標高の高い山では雪の便りが聞かれるようになりました。近年は気候の変化も極端で、順応できずに戸惑うばかりです。騒がしかった夏は去りましたが、今月末は国政と町長、町議のトリプル選挙があり少し騒がしい。今後の日本と町を方向づける代表が選出されます。未来に希望が持てる国と町を心から期待してます。

【今年の紅葉は遅い！？創造の森】

野山はこれから紅葉の季節となりますが、今月前半に気温の高い日が続いたので、今年はかなり遅れています。本谷の奥、創造の森には、神戸の「ブナを植える会」が2,000本以上を植樹しており、それ以外にも山頂付近には自然のブナが自生しています。カエデの仲間や広葉樹が多く、時期が来ると綺麗な紅葉が見れます。今はまだ少し早いけど、これから天気の良い日には紅葉見物に訪れてみてはどうでしょう？

まだ全然紅葉していない創造の森（10月19日）

【食欲の秋、山の幸と川の幸をいただく】

公民館行事の年間計画では、今月は芋掘り体験を考えていましたが、芋畑がイノシシに襲われて全滅してしまったので、猪を食べることにしました。17日（日）、朝から雨になり気温も低く生憎の天候でしたが、「木実さがしと飯ごう炊さん」を開催し、15人(子ども8、大人7）の参加がありました。雨で木の実探しは行けなかったけど、前もって採取してあったアケビやクルミ、銀杏に触れたりして、後で調理して食べました。岸田川漁協から特別に許可をいただき、前日に仕掛けておいたカニ籠を引上げに行きました。籠にモクズガニがいっぱい入っており、大鍋で茹でて食べました。飯ごうにお米とムカゴを一緒に入れて火にかけて炊きました。ニンジンやジャガイモの皮をむいたり切って、猪肉を入れたカレーを作りました。ムカゴご飯にたっぷりカレーをかけて、昼食にしました。川ガニはカニ味噌が濃厚で、猪肉カレーもとても美味しく、みんなお代わりしてお腹一杯、山の幸と川の幸を味わいました。

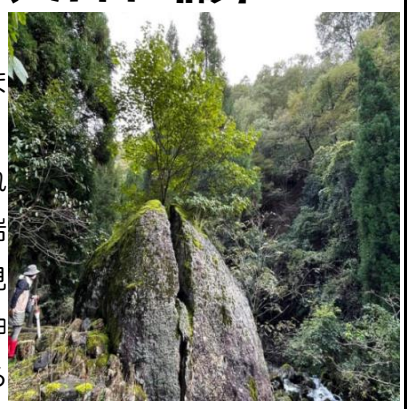
茹でた川ガニ

銀杏とオニグルミの実

飯ごうでムカゴ入りご飯を炊きました

猪肉入りカレーは美味しい

【久斗渓谷ジオツアー、ガイド研修】



山陰海岸ジオパークのコースの一つには、久斗川渓谷も含まれています。10月20日(水)、ジオガイドの研修会が開催されました。まず、大味の桃太郎岩に行き、二つに割れた大岩を見学しました。久斗山では大杉神社に寄ってから、本谷のたたら跡に行き、金屋子神や遺跡発掘の現地を確認して、川原から“かなくそ”を拾ったりしました。藤尾から久斗山までは堅い安山岩で、谷も狭く直角に蛇行する特徴があり、幾つもの滝などがあります。久斗山から上流は風化が進んだ花崗岩質で砂鉄が含まれ、谷の水と山から木炭などの燃料が豊富なため、江戸時代に製鉄産業が栄えた歴史があります。地区再発見のいい機会でした。

【舗装が新しくなりました】

県道山田新温泉線の境～藤尾間、1,022mが、このほど舗装修繕工事が行われ、ひび割れて痛んでいたAs舗装が新しく綺麗になりました。香住のナベヤ住設(株)が元請で、下に町内の山陰道路(株)が施工にあたり、古い舗装をめくって、採石を入れて、厚さ5㎝のAs合材が敷れました。新しい舗装は車で走っても気持ち良いです。

【スズメバチに注意！】

今月は例年に比べて気温の高い日が続き、そのせいかハチ達も元気で、いつもに比べてスズメバチの巣も大きく、大所帯です。家の軒先や屋根裏に巣を構え、天気の良い日は、11月の初めまでは元気に飛びまわっています。刺れないよう気をつけましょう！

○令和3年　11月の行事

3日(水)　新温泉町文化祭 舞台発表　(10：00～17：00　夢ホール)
13日(土)　新温泉町青少年育成町民大会 (13：30～16：10　) 新温泉町青少年育成推進協議会
14日(日)　「地域探訪、紅葉の創造の森へ遠足」(9：00～14：00　久斗山地区公民館)

令和３年度
第17回新温泉町文化祭　浜坂会場

○日程:11月6日(土)～8日(月)
開催時間　9:00～17:00
(8日は15:00まで)
○会場:浜坂多目的集会施設　全館
○出品作品:
書道、絵画、押し花、陶芸、パッチワーク
和紙人形、写真、絵手紙、短歌、生花
組み木、ちぎり絵、刺繍、手芸他
ー全31出品
(※11月3日に夢ホールで舞台発表)

【問合せ先】
浜坂公民館(新温泉町文化祭実行委員会)
TEL0796-82-4339

今月の野草
ヨメナ

道ばたや田畑の畦などに群生し、夏から秋にかけて、茎の先端に淡い青紫色をした花びらの菊に似た花を咲かせます。花が白い、別種のシロヨメナというのもあります。

名前を漢字で書くと嫁菜。清楚な花の美しさを若嫁に擬えて付けられたそうです。さらに春先の柔らかい葉は香りがあり、ご飯に混ぜて「嫁菜飯」にして食用になります。

群生するヨメナ

かってに昔話
じょろさん(第一話)

作、いっこう

晩秋の小春日和の日になると、田舎の山沿いの家では、暖かな縁側や窓辺から、多くの灰色をした亀虫が屋内に入ってきます。放っておくと、どこか部屋の中に隠れて越冬し、春暖かくなるとまた姿を見せます。小さな虫ですが、夏は植物の汁を吸う害虫で、指でつまんだりすると嫌な臭いを出す嫌われ者です。クサギカメムシという正式な和名があるんですが、場所によって呼び名も違い、久斗山では「じょろさん」と呼んでいます。今回は、そのじょろさんにまつわるお話です。

昔、山間の村に、貧しいけれど子供が八人もいる一家が住んでいました。その末の娘、スエは、幼い頃から愛らしくて器量良しで、両親は元より、近所の人からもとても可愛がられていました。

ある日、村に都から一人の男が来て、スエに目をつけました。男は、スエの両親を前にすると

「こんな器量良しの娘さんは、都に行ってもそうそうおらん。ワシに任せれば、大きなお屋敷に奉公できるよう世話します。年に盆と正月は里に帰れるし、お給金も沢山もらえますからね」

男は見た目も善良そうで、物腰も柔らかく、口減らしを考えていた両親は、丁度いい話だとばかりに、わずかな支度金をもらい、スエをその男に託しました。スエはこの時十になったばかりでした。

さて、この男、スエの両親はすっかり信用してしまいましたが、実は悪質な筋物で、都に連れていかれたスエは花街の女郎屋に売られてしまったのです。

(つづく)